

いしづえ

学校教育目標

- ・意欲を持ち 自主的に学習する生徒
- ・人と郷土を愛し 進んで奉仕する生徒
- ・健康で はつらつとした生徒



<合唱コンクール練習風景～放課後>

6月8日（金）開催予定の「合唱コンクール」に向けての練習が、各クラスとも、ますます盛り上がりを見せています。一日中、校舎内に美しい歌声が響き渡っています。「学校開放」や「授業参観」の日でなくとも、一年中、生徒たちの生活や授業の様子を見ていただくことは可能ですので、もし時間があれば、来校いただきますようお願ひいたします。

<本年度の学校経営方針について②>

【学校教育目標】

- 意欲を持ち 自主的に学習する生徒
 - ・問題意識を持ち、筋道を立てて、自ら探求し、解明しようとする。
 - ・積極的に考えを出し合って、さらに深めようとする。
 - ・目標を持ち続け、力を集中し、粘り強く頑張る。
- 人と郷土を愛し 進んで奉仕する生徒
 - ・思いやりの温かい心で、素直に人を受け入れ、仲間を大切にする。
 - ・学校や郷土に誇りを持ち、積極的に奉仕活動をする。
- 健康で はつらつとした生徒
 - ・積極的に身体を鍛え、健康で安全な生活をする。
 - ・ルールを守り、マナーを大切にし、明るくきびきびとした節度ある行動をする。
 - ・手洗い、うがいを心掛け、健康維持に努める。

① その実現のために

<すべての活動は子どもたちのために>

【目指す教師像】～自ら学ぶ者こそ教師～（反省的実践者）

- 1 生徒一人一人を理解し、信頼し、伸ばす教師
- 2 教材研究を大切にし、確かな学力を保証する教師
- 3 自己啓発に励み、専門職として責務を果たせる教師
- 4 組織の一員として、積極的に分業と協働のできる教師

<学校運営協議会が始まりました！>

5月9日（水）、本校校長室等を会場に、今年度第1回の学校運営協議会が開かれました。この「学校運営協議会制度」は、昨年度までの「学校評議員制度」を基盤にして、今年度より下野市内全小中学校で導入したものです。活動が始まったばかりですので、今後、制度の趣旨や活動の内容等を隨時紹介していきたいと考えていますが、主なものとしては、

- これまでの「地域に開かれた学校」をより一步進展させ、「（学校だけではなく）地域でどのような子どもたちを育てるのか」という目標やビジョンを、地域（保護者、地域住民等）と学校が共有し、一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へ転換していくことを目指す。
- 学校評議員は、各個人が、校長の求めに応じて意見を述べたのに対し、学校運営協議会は、組織体として、合議によってその意思を決定し、学校運営に参画する。

さらに、下野市の取組の特長として、「地域学校協働活動推進員」を委嘱している点があります。学校と地域社会をつなぐコーディネーターの役割として、地域人材の育成、ふるさと学習、防災訓練等の協働活動や、放課後、土日の学習・スポーツ活動の支援活動、さらには自然体験活動やボランティア活動等の体験活動をコーディネートし、相互に連携・協働する協力体制を構築します。

当日は、委員の方へ任命書交付、校長より「本年度の学校教育目標と方針」についての説明を行った後、校内全クラスの授業を参観し、学校や生徒たちの様子を確認していただきました。そして、最後の意見交換の場では、まず、協議会の重大な権限・機能の1つである



＜授業参観の様子＞

「教育目標及び学校経営計画等の承認」について協議し、様々な貴重なご助言を基に、承認をいただきました。また、授業参観の感想としては、日頃見ている校外での生活も含め、本校生徒たちが落ち着いた生活を送っているとのお誉めの言葉をいただきました。

今年度の委員の方々は以下のとおりです。一年間いろいろとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

＜敬称略＞

1	平井 熲	3年目 元本校 PTA 会長	6	伊藤 敬子	新 任 地域住民
2	間中 康夫	2年目 博物館職員	7	植野 渉	新 任 本校 PTA 会長
3	中祖 光隆	2年目 元本校 PTA 役員	8	石崎 雅也	新 任 本校校長
4	五十嵐 早苗	2年目 地域住民	9	奥澤 知行	新任 本校教諭(地域連携教員)
5	大久保 武	新 任 地域住民		上野 一成	学校地域協働活動推進員

《小中一貫教育のさらなる推進のために！》

今年度、下野市は、小中一貫教育実践研究の2年目を迎えました。そのため、研究のさらなる推進が求められるところですが、その方策の1つとして、今年度より「小中一貫の日」を設定することとなりました。これは、各中学校区内の全ての教職員が一堂に会し、小中一貫教育に関する研修をするものです。これにより、小・中間ばかりでなく、小・小間の連携もよろしく、学区内小中学校の共通認識、共通実践が効果的に図れることが期待されます。

今回は、まず、昨年度の取組の振り返りということで、研究の「グランドデザイン」や「目指す子ども像」等の確認をした後、市教委の田澤指導主事より「下野市の進める小中一貫教育について」改めて説明を受けました。そして、最後に、各実践部会に分かれて、今後の研究の方向性や実践の内容について話し合いました。



＜研修会の様子＞

国においては関係法令が施行され、県においてはガイドラインが策定されるなど、今後ますます、小中一貫教育の進展が予想されます。義務教育9年間の見通しをもった教育課程を編成し、系統性のある指導を行うことで、子どもたちの成長に資するのが、その目的となります。本学区においては、

○ 学び合い高め合う子ども

○ 主体的に人や社会に関わる子ども

を「小中一貫教育で目指す子ども像」とし、並びに、その実現に至るまでの各発達段階の「子どもの具体的な姿」を設定し、

＜例＞「主体的に人や社会と関わる子ども」育成のために（案）

○小学1・2年生＝「……元気のよいあいさつ、返事……」、「話を最後まで聞き、……」

↓
○小学3・4年生＝「……気持ちのよい // ……」、「相手の考えを認め、……」

↓
○小5～中1年生＝「時と場合に応じた // ……」、「相手の気持ちや立場を考えて……」

↓
○中学2・3年生＝「時と場合に応じて、ふさわしいコミュニケーション……」

そのために必要とされる「教師の支援」について研究を進めています。

今後、「小中教員相互乗り入れ授業」や「学校行事の共同実施」等、小・中の垣根を取り払った実践が増えます。保護者や地域の方々には、ご理解・ご協力を願うとともに、時には、「小学生、中学生」と分けることなく、同じ「地域の子ども」という認識も持つていただければ幸いです。